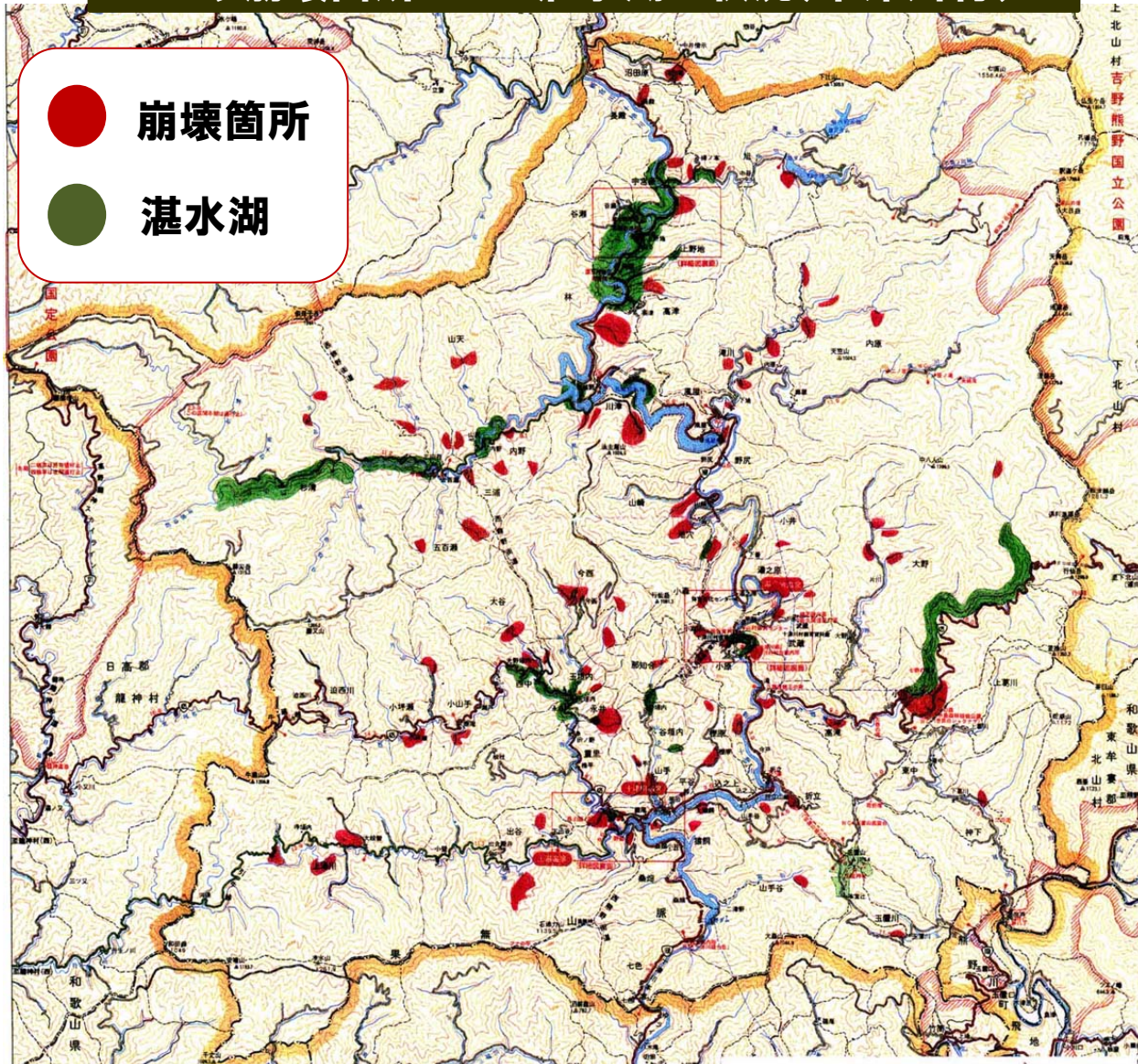


十津川大水害について

明治 22 年(1889 年)8 月に紀伊半島南部を局地的に襲った集中豪雨により十津川村を中心に甚大な被害が発生した。降雨は 3 日 3 晩降り続き、十津川村だけでも死者 168 人、流失・全半壊家屋 610 戸、山崩れの箇所 1000 箇所以上に及び、その土砂は谷を埋め各地で湛水湖が出現しました。この時家や土地を失った 600 戸、2,500 人の被災者は新天地を求め北海道へ集団で移住しました。

土砂崩壊箇所および湛水湖の状況(十津川村)



土砂崩壊による湛水湖の状況



土砂崩壊の状況



熊野本宮大社の被災

かつての本宮大社は、およそ1万1千坪の境内に五棟十二社の社殿が立ち並び、幾棟もの摂末社もあり、楼門がそびえ、神楽殿や能舞台、文庫、宝蔵、社務所、神馬舎などもあり、現在の8倍もの規模を誇っていた。ところが、明治 22 年の十津川大水害の影響(大規模な湛水湖の崩壊による洪水)でほとんどの社殿が流出した。2年後の明治 24 年(1891 年3月)には、流出を免れた上四社が現在の高台に遷座され、一方、流出した中四社・下四社と境内摂末社は旧社地に2基の石祠に祀られ現在に至っている。